



発行所
 一般財団法人
 広島県動員学徒等犠牲者の会
 事務局
 広島市南区比治山本町12-2
 広島県社会福祉会館内
 〒732-0816 電話(082)252-0316
 印刷所 Taisei
 デジタルブック
 “慟哭の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

第68回原爆死没学徒

追悼式を終えて

理事長 本地 正治

今年も8月6日に、恒例の原爆死没学徒追悼式を挙行いたしました。式典開始直後の8時15分に、慰霊塔前広場にご参集の皆様全員で、黙とうを捧げました。

以降は、理事長式辞、次いで、県知事様、市長様、国泰寺高等学校生

徒代表様の順で追悼の言葉をお聞きいただき、続いてご来賓の皆様にお花をいただきました。

式典終了後、10時ころまでは、広島市の平和式典参列を終えられた、国会(18名)、県会(13名)、市会(11名)の多くの議員の皆様(合計42名)

祝 日本被団協 ノーベル平和賞受賞

10月11日に、2024年のノーベル平和賞に、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)が決まったとの報道発表がありました。

被爆者及びそのご遺族の皆様、並びに関係団体の皆様

ノーベル平和賞ご受賞

誠にありがとうございます
 心よりお祝い申し上げます

この度の受賞は、日本被団協が結成以来68年の長きにわたって、被爆証言を通じて、核兵器の廃絶と、戦争のない世界平和の実現を訴え続けてきた継続的活動が高く評価されたものですし、被爆者及びそのご遺族への世界的敬意の表れでもあります。

また、この受賞は、被爆死した御霊へのこの上ない朗報であり、関係各位の今後の核兵器廃絶と世界平和実現に向けた活動への一層の励みになるもので、誠に喜ばしい限りです。
 (広島県動員学徒等犠牲者の会)

に、三々五々にご参拝いただき献花をしていただきました。

そして従来どおり、8時ころから12時までの間、名簿閲覧、お供えの受付、参列者への慰霊塔の説明チラシ配りを行いました。

名簿閲覧数は11件で、そのうち確認できたのは9件でした。閲覧希望者数の内訳は、兄弟姉妹4件、おいめい2件、従姉妹2件、その他3件でした。名簿に記載されていることが確認できた時は、「あつたー。良かった。」「良かったですね。」と、閲覧希望者と担当役員が、満面の笑みで喜び合い、酷暑を忘れるほどのほのほとしたひとときとなります。

毎年多くの方々から、ご芳志を賜りますこと、心から感謝申し上げますとともに、ご遺族の皆様方の原爆の犠牲となられた学徒に対する哀惜の情、慰霊の精神は、79年たった現在でも何ら変わっていないことに気づかされ、心より感動いたしております。

今回も滞りなく無事追悼式を終えることができましたのは、これはひとえに、参加役員の皆様方の献身的活動によるものであり、日ごろから当会を物心両面にわたって、お支えいただいている会員ご一同様のおかげでございます。理事長といたしまして心から感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

第68回原爆死没者追悼式

式次第(敬称略)

- 一 黙祷
- 一 式辞
- 一 来賓追悼の辞
 - (代読) 健康福祉局 湯崎英彦
 - 広島県知事
 - (代読) 健康福祉局 六箱栄子
 - 社会援護課長
 - 広島市長 松井一實
 - (代読) 健康福祉局保健部 医務監 宮城昌治
- 一 学校代表生徒の追悼の辞
 - 広島県立広島国泰寺高等学校 生徒代表 真部愛望
- 一 (衆議院議員)
 - ご来賓等献花者
 - 岸田文雄 平口 洋 齊藤鉄夫
 - 新谷正義 寺田 稔 佐藤公治
 - 小林史明 小島敏文 空本誠喜
 - 日下正喜 平林 晃 泉 健太
 - 玉木雄一郎
- 一 (参議院議員)
 - 森本真治 宮口治子 三上絵里
 - 谷合正明 山本博司
- 一 (広島県議会議員)
 - 灰岡香奈 蔵本 健 中原好治
 - 山下智之 福知基弘 岡部千鶴
 - 瀧本 実 畑石顕司 鷹廣純
 - 竹原 哲 山木 茂 相澤 孝
 - 砂原崇弘
- 一 (広島市議会議員)
 - 宮崎誠克 山下正寛 中村孝江
 - 大田智弘 平野太祐 定野和広
 - 岡村和明 三宅朗充
 - 西佐古晋平 川口茂博
- 一 (広島市遺族会)
 - 副会長 中島百合枝
- 一 (広島県立広島国泰寺高等学校)
 - 校長 森田達己
 - 中村 凜 今橋百香

式辞

理事長 本地正治

本日ここに 広島県動員学徒等犠牲者の会 第六十八回原爆死没者追悼式を挙げるにあたり、最初に、動員学徒、女子挺身隊員として出動中に被爆し犠牲となられた七千有余名の英霊に対し深甚なる哀悼の誠を捧げるものであります。

当広島県動員学徒等犠牲者の会は、第二次世界大戦の戦禍により死傷した動員学徒及び遺族への国家補償、戦没学徒の靖国神社への合祀、戦没学徒への叙勲などを実現させるために、戦没学徒の友人や遺族が中心となって、昭和32年に発足いたしました。

以来、毎年8月6日に戦没学徒追悼式を開催してまいりました。最初のころは、市内の適宜な場所



理事長 本地正治

をお借りして行っていました。動員学徒慰霊塔を建設した昭和42年以降は、本日の開催場所である動員学徒慰霊塔前広場において挙行いたしております。

この慰霊塔は、ともすれば忘れがちな戦没学徒の苦難な戦時活動の実態を、未来にわたって伝承し、犠牲となった御霊を慰霊するため及び戦争のない世界平和を願って建設いたしました。

この塔の制作につきましては、広島県出身の彫刻家で、文化勲章受章者の圓鏢勝三氏にご依頼申し上げましたところ、圓鏢氏は、即座に「私でお役にたつことなら」と、快くお引き受けいただいたと伺っております。

この塔は、高さは12メートルで、中心柱の先端が折れた形になっており、これは学徒が勉強半ばで犠牲となり、未来に向かって羽ばたくことができなかった無念さを表しています。

また、戦没学徒の御霊を静かに見守る女神の像と、8羽の鳩を配し、戦争のない永遠の平和と繁栄を祈念して、空に向かって末広がりの五層の構造となっております。

そして、塔の背後の4枚のレリーフには、食糧増産作業や工場における鉄工作业、女子生徒の縫製作業など、動員学徒が熱心に作業に従事し

ている情景及び塔の由来などが描かれています。

このように昭和40年当時の当会会員の切なる願いを、あますことなく見事に具現化していただきました圓鏢氏に対しましては、50年以上たちました今もお感謝の念に堪えないところでございます。

また、国内外からこの慰霊塔を訪れる多くの旅行者の皆様、被爆動員学徒の悲惨な実態をご理解いただき、敬虔なる祈りを捧げていただき、敬虔なる祈りを捧げていただき、喜び慰められるのではないかと念願いたしております。

当会といたしましては、原爆による戦没学徒の無念さを忘れず、これからも月二回程度の慰霊塔周辺の清掃・供花、また、月一回の西向寺における読経を継続実施し、慰霊塔の護持及び英霊の慰霊に努めてまいりますとともに、微力ではございますが、「核兵器のない平和な世界の実現」に向けて、原爆の悲惨さと平和の尊さを末永く語り継いでまいりたいと、これまで以上に意を強くいたしております。

終わりに、本日の式典にご参列いただきました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、動員学徒の御霊の永遠の安らぎと皆々様の平安を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。



黙祷



慰霊塔前



案内

追悼のことば

広島県知事

湯崎英彦

本日ここに「第六十八回原爆死没者追悼式」が執り行われるに当たり県民を代表し、謹んで追悼のことばを申し上げます。

顧みますと、あの忘れることのできない日から、七十九年という歳月が過ぎ去りました。

人類史上初めて使用された原子爆弾は、この慰霊塔の上空で炸裂し、一瞬にして広島を焦土と化し、無限の可能性を秘めた、動員学徒や女子挺身隊の方々を始めとする、多くの尊い生命が失われました。祖国の発展と安泰を願い、建物疎開などに従事中に亡くなられた余りにも若い犠牲者の方々の無念の思いを推しはかる時、哀惜の念、胸に迫るのを禁じ得ません。

また、最愛の我が子や肉親を失なわれた御遺族の皆様には、長い間言葉に尽くせない深い悲しみと多くの困難を乗り越えてこられたところであり、その間の御心労と御努力の程は、察するに余りあります。

私たちは、先の大戦の体験から

「あやまちは一度和繰り返しませぬ」と固く決意しました。

しかしながら、戦後生まれの世代が大多数を占める中、戦争体験、被爆体験の風化が懸念され、一方では、今なお、恒久平和と核兵器廃絶への道のりには、険しいものがあります。

こうした今こそ、原爆の惨禍を乗り越えた「ひろしま」には、「核兵器のない世界」に向けた強い思いを国際社会と共有し、平和と安定の実現に向けて、努力して行く責任があると考えます。

そのためにも、戦争の悲惨さやそこに幾多の尊い犠牲があったことを次の世代に語り継ぐとともに、国の内外に、平和の大切さを強く訴えつつ、つづけていかなければなりません。そして、この二十一世紀を、誰もが心豊かに暮らせる、より良い社会とするため、全力を尽くしていくことを、お誓い申し上げます。終わりに、犠牲者の方々の御冥福と御遺族の皆様のお幸を、心からお祈り申し上げます。追悼のことばといたします。

広島市長

松井一實

本日、一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会の主催により、第68回原爆死没者追悼式が執り行われるに当たり、犠牲者の御霊に対し、謹んで追悼の言葉を捧げます。

79年前、動員学徒、女子挺身隊員として、ひたすら我が国の安泰を願い、軍需工場での作業や建物疎開作業に従事されていた多くの方々が、一発の原子爆弾によって若くしてその尊い生命を奪い去られたことは、誠に哀惜の念に堪えません。また、最愛の肉親を亡くされた御遺族の皆様におかれましては、今なお、その悲しみはいかばかりかと御拝察申し上げます。

今日の我が国の平和と繁栄は、こうした多くの尊い犠牲の下にありまします。私たちはこのことを決して忘れてはならず、同じ思いをする子供たちやその家族を生み出さないためにも、二度と悲惨な戦争を繰り返してはなりません。

しかしながら、現下の国際情勢を見ますと、国と国あるいは地域との間での紛争が激化し、罪のない多くの市民が犠牲になつていきます。それにもかかわらず、紛争の解決に努めるべき多くの為政者が、紛争当事者

のどちらかを支持し、戦力の増強を含め支持する側の行動を支援し、世論も紛争当事者のいずれかを支持するかを重視する余り、為政者のそうした対応に理解を示す傾向が見られるなど、これまで長年被爆地が訴え続けてきた平和への願いに逆行する危険な事態が続いています。

こうした中で、本市は、被爆の惨禍から立ち直った経験を踏まえた「平和への願い」を世界中に広げ、世界の都市や多様な主体との連携を図りながら、あらゆる暴力を否定する「平和文化」を振興し、市民生活の安寧が確保される平和な国際社会が実現する環境づくりに貢献してまいります。

終わりに、御霊のとしえに安らかなる御冥福をお祈り申し上げますとともに、御遺族の皆様のお健勝を祈念いたしまして、追悼の言葉とさせていただきます。



広島県立広島国泰寺高等学校

生徒代表 真部愛望

本日は一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会様主催の第68回原爆死没者追悼式に参列させていただき、まずことに感謝し、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

雲一つない朝を迎え、いつもと変わらない一日が始まった矢先、広島に一発の原子爆弾が投下されました。1945年8月6日、人々の生活、大切な命、未来への希望、だれにも奪われてはならないものが一瞬で奪われ、還らぬものとなりました。あの日から79年たった今日、「75年

は草木も生えぬ」とまで言われた広島は、島の街は見事な復興を遂げ、多くの人々の笑顔と豊かな緑あふれる街となりました。

しかし、今もなお9か国が核を保有しており、1万3000発を超える核兵器が存在するとも言われています。世界中で紛争や内乱が絶えない今、それらの核兵器はいつ使用されてもおかしくありません。当時、戦時下という過酷な状況にありながらも未来への希望を捨てることなく学んでいた、今の私たちと変わらない年齢の多くの生徒・学生の方々が、軍需産業や食料生産に動員され、懸命に働いていたにも関わらず、非情な一発によって犠牲にられました。亡くなられた方々、突然大切な人を奪われたご家族の方々の胸の内には私たちが想像できないほどの苦しみや痛み、憤りが押し寄せていたことと思います。使用されてよい核兵器など、この世には存在しません。8月6日に起きた出来事を決して忘れることなく、平和の大切さを世界中の人々や次の世代に繋いでいかなければなりません。しかし、広島に原子爆弾が投下された日付を正

確に答えられた割合は広島市と日本全体では大きな隔たりがあるという調査結果もあります。罪なき命が危険にさらされ奪われ続けている今、より多くの学生、若者が二度と繰り返してはならないあの日の出来事を知り、風化させることなく、未来につなげていく必要があります。そのリーダーとなるのは広島県の子供たちではないでしょうか。

現在被爆者の方々の平均年齢は85歳を超え、被爆の経験を次の世代に直接伝承し、平和の輪を広げていくことが難しくなっています。広島に生まれ育ち、平和学習を通して平和の大切さについて考えてきた私たちには、二度と繰り返してはならない8月6日の出来事を、被爆者の方々の思いと共に受け継ぎ、語り継いでいく責任があります。私たちが今送っている生活を当たり前だと感じられているのは、多くの方々がこれまで戦争無き世界実現のために繋いでこられた襷のおかげだということに心に残り、襷を次の世代に確実に繋いでいきます。

最後になりましたが、原子爆弾により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、戦争無き世界実現のために「心の襷」を繋げていくことを誓い、追悼の言葉とさせていただきます。



生徒代表 真部愛望



名簿閲覧



名簿閲覧



参拝の方々

高校生が描いたヒロシマ「原爆の絵画展」鑑賞

(令和6年度研修会の実施)

今年度の研修会として、8月22日に、「原爆の絵画展」を鑑賞しました。

「原爆の絵」は、被爆体験者の心に深く記憶している悲惨な光景を、リアルな絵に再現して、後世に伝え残していくための貴重な作品です。

これらの絵を鑑賞することにより、高校生が被爆者の証言をもとに作成した絵のすばらしさに感動するとともに、言葉や文字ではとても表現できないリアルな原爆被害の実相に触れることができ、また、原爆被害の悲惨さ、平和の重要性について、強く再認識でき、とても有意義な研修となりました。

この絵画展の開催概要と当日参加した当会役員の鑑賞した感想をご紹介します。

まだ鑑賞したことのない会員の皆様には、来年以降の鑑賞をお勧めします。

◎令和6年高校生が描いたヒロシマ

「原爆の絵画展」の開催概要

期 間…8月10日から8月28日
場 所…広島国際会議場地下2階サクラ

展示内容…広島市中区の広島市立

基町高等学校(普通科創造表現コース)で美術を学ぶ生徒が、2007年から被爆者の証言をもとに「原爆の絵」を毎年制作してきて、これまでに207点の絵を描いています。

ことしも生徒16人がおよそ9か月かけて描いた絵16点を含む約60点が、「原爆の絵画展」として広島国際会議場で展示されました。

原爆の絵の活用…

これらの「被爆の絵」は、平和記念資料館に寄贈され、証言者が被爆体験を語るときに、当時の状況をよりリアルに理解してもらうために使われています。

また、「原爆の絵」をより深く理解できるように、それぞれに次のコメントが付記されています。

- ・ 被爆者の絵となった場面・状況の説明
- ・ 完成した絵に対する被爆者の感想
- ・ 絵を描いた高校生の、被爆

者と接した思い、感じたこと、どのような点に注意して描いたかなどの説明

◎原爆の絵画展を鑑賞して(当会役員の感想)

○ 2007年から続けられている広島市立基町高等学校の普通科創造表現コースの生徒さんによる「原爆の絵」の油彩は、17年間で207点も出来上がっているそうですが、今回の展示で初めて観させていたただいたものも何点ありました。一つ一つの絵に、当時その被爆者の方が体験された場所の地図と、詳しい体験文、そして作者である高校生のコメントも添えられていて、きのこ雲の下の子の理解が深まりました。被爆者の方と高校生が二人三脚で被爆体験を絵に残してくださることは、被爆から79年経って、あの日の体験を直接お聞きすることが難しくなってきた今、本当に貴重な継承の在り方の一つだと思いました。

○ 「高校生の描いた原爆の絵」は、毎年開催されておりすが、今回は新しく証言者になられた数名の原爆の絵が展示されており、その点は新鮮な感じを思う研修会でした。高校生が被爆者のお話をよく聞き、良く理解して描いた絵であることが良く理解できる完成度の高い作品ばかりでした。私は、この「高校生の描いた原爆の絵」を被爆体験伝承講話活動で活用させていただいています。

○ 原爆被害について、これまで、文字と言葉で表現したものでしか理解していませんでしたが、絵画展の会場及び製本された作品集で、高校生が制作した「原爆の絵」を観ることで、被爆直後は思っていた以上に、悲惨な状況であったことがわかり、「原爆投下」に対して今まで以上に「許しがたい強い怒り」を覚え、被爆者の方々の心痛を想うと胸の奥が熱くなりました。核戦争だけは絶対にあってはなりません!!

○ 被爆体験を語られる方が少なくなるなか、苦悩に満ちた被爆体験の証言をされた方々に、心から敬意を表します。証言者の中に、私がお名前を知っている方が三人おられま

した。

そのうちのお一方が証言し描かれた「殺人光線の照射」でオレンジ色の光線と学徒が鮮明に描かれています。これを観たとき「慟哭の証言」(証言集)のオレンジ色の表紙と重なり、多くの被爆された動員学徒の姿と、当会の役員を務めながら亡くなられた方々のお顔が臉に浮かび涙しました。(学徒の中には私の兄もいました。)

世界が、核兵器の恐ろしさを無駄を実感し、廃絶への道へ向かうことを念じます。

絵を描いてくださった、基町高校の生徒さん、力作を残していただき有難う。

○ 今回は、限らない夢と希望に満ち溢れる基町高校生と被爆者や語り部の皆さんの共同作業による絵画展を見学する機会を得た。

この取り組みは、世界中の来館者に、核兵器廃絶、世界平和実現の願いを真直に強く訴えている。私達動員学徒等犠牲者の会にも、活動内容の柔軟な変化や発展を推進してはと促してくれているような気がした。

私の心の内では、この機会に若い世代の人たちに会えた時には、地道に一人ずつ説き、招き入れる努力を進めたい。

○ 研修会で基町高校創造表現

コースの生徒さんたちが制作された、被爆絵画を鑑賞致しました。現役高校生が被爆者の方と共に原爆の絵を制作するというのは異質な制作スタイルではないでしょうか。

広島に生まれ育ちながらも被爆の惨状を見聞きする機会の少ない高校生たちが、被爆体験者から直接話しを聞きながら絵画を制作する。実際に原爆を体験した人の息、体温を感じつつ、その人生を垣間見ながらの制作。普段の絵画制作とまったく違った制作方法は高校生達にとつて衝撃的でありながらもたいへん貴重な経験だったと思います。

悲惨な情景の表現された作品を拝見しつつ、被爆者と制作者とのやりとりや交流、共有された時間に思いを馳せないではいられません。これら絵画の制作は、私たちが行っている犠牲者の慰霊、被爆惨状の伝承に必ずつながるものと思えました。

慰霊、伝承、映像、絵画などにより世界中の人に原爆の真実を伝えられることを切に願います。

○ 高校生が被爆者の話を熱心に聞き取り、忠実に表現しようと

する若者らしい感性が感じられる絵画でした。

原爆の実相を伝え後世に継承することができる絵画です。もつと多くの人に見てもらえる場所に展示してもいいのではないのでしょうか。

懐かしい地名、忘れかけていたことで、涙する場面もありました。

○ 被爆者の証言をもとに描いた「原爆の絵画展」を鑑賞して、被爆者の体験を伝承する上で視覚に訴える役割の大きさを強く感じました。

孫と同じ年代の高校生の力作に接し、熱心な取り組みに頭が下がると同時に、被爆者と描き手両方の願いが伝わることをうれしく思いました。

絵を一つ一つ見ながら親や兄の身に置き換えて疑似体験になり、改めて残酷・悲惨さを思い返しました。

被爆者と若い高校生の共同作業によりできあがった作品展示が、一時期のみではもったいない。十七年間の二百を超える絵は、広島平和資料館に寄贈されホームページで見ることが出来る。しかし、常時全ての絵が展示され、多くの人の目と心に伝える必要があると考えます。

○ 今回研修会として、原爆の絵画展を観る機会をいただきました。

実は、数年前基町高校美術部に所属する知人の孫が、被爆体験証言者と共に原爆の絵を描くその過程がテレビで放送されたことがあります。従って関心は持っていました。その絵画を見るのは初めてでした。

第一印象は、これは全てプロが描いた絵画ではないかと間違える程のレベルの高い作品だったことと、その日の惨状を生々しくリアルに描かれていたことです。

高校生たちは被爆体験証言者の証言を聞き、あの日の出来事をイメージし、何度も打ち合わせをしながら、数か月掛けて描き上げたとのこと。その過程はまことに尊く正にこれ以上の平和教育はないでしょう。

私の兄(長兄、次兄)二人は、動員学徒として建物疎開作業に従事して原爆死しました。行方不明で遺骨は戻らず、いつどこで亡くなったかも分かりません。

父も母も原爆の日のことを子供の私に語ることはありませんでしたが、父も母も何日も二人の消息を訪ね歩く中で、この絵画に描かれたような惨状を目の当たりにしたんだと思う

と、とても悲しくつらい気持ちになりました。

○ 「原爆の絵」展で感じたこと

原爆のことは子供の時からたくさん聞いて、またそれを扱った本や記事を読んだり、映画や芝居を見てきていますが、この度の「原爆の絵画」展で自分とつてより親しい、身近な場所の原爆を知ることができました（被爆者の人と若い高校生の人の交流もすごく好感度が高くて、頼もしいものを感じました）。古田小学校の通学路である旧国道に沿った山側に防空壕は昭和40年代までいくつも残っていました。お地藏様の前の道の西国街道は避難経路の一つで、八月六日の夕刻、黒い雨が降り、避難する被爆者の人の無言の群れが幽霊のように歩いてゆく情景が描かれています。いつもの日常の同じ場所で、そんなことがあったとは知らなかったし、想像もできないことでした。



動員学徒をしのぶ

座談会（その六）

（昭和43年発行「動員学徒誌」から転載）

司会者（大東和徳雄）

数田先生は戦時中、広島県視学官として、又後に広島第一中学校々長として動員学徒とは深い関係があった先生であります。当時のことを思い出されて何か一つご感想を、

数田猛雄

広島県の動員実施計画は学徒ばかりではなく一般計画と併せて内政部（動員課が担当し、それに従って学徒に関する配置計画は学務課がやり、学徒は飛行機や弾丸の製作する工廠や軍需工場と食糧増産関係の土地改良や米麦、諸の栽培協力のため男女を問わず出動しました。

工場では他の工員との人間関係調整のため労政課が協力し学徒を守ってくれ、又食糧欠乏が甚しかったので保健衛生面は衛生課で細心の注意を払ってもらいました。

私達教育関係者としては、教育防衛の立場から僅の時間でも教養を高め、学問の道の指導訓育に心をくだいたものであります。

この間学徒は国家の危急存亡にあたり、ひたすら勝利を希って栄養失調に陥りながら昼夜を分たず自己をなげうってよく精進努力してくれ

ました。

青雲の志を持ちながら入学以来明けても暮れても戦力の増強に死力を尽くし、学業を省みる暇もなかった。この姿では勝つても負けても将来どうなることかと心配でならなかったものです。

そこで教育防衛のため、無理難題を言う軍部としばしば衝突したことも今に至って感慨無量のものがあります。

原爆のため六千余人の犠牲者が出たのでその善後策は大変なことでありました。中でも忘れられないことは県庁の野平体育主事は原爆に遭い頭に包帯して学徒の報償金を貰うため無理に八月八日頃文部省に出張されたことでもあります。

又学徒の中には工場で手足を切断されたり、顔に大負傷を受けたり、あまりに熱心なため精神に異常を来した人もありました。これ等の人は今尚傷害の苦痛に悩んでおられますが政府はこの方々に温かい援護の手をさしのばして貰うよう、動員学徒犠牲者の会でご努力下さい。そうなくして私達も安心して眠れません。

司会者

ご激励、まことに有難うあります。先生にも今後ご援助をお願いいたします。

数田猛雄

私達でできるご援助はいとません。どうかご利用ください。

司会者

皆さんからいろいろご感想なりご意見をいただきましたが、いずれも胸せまる思いでお聞きしました。最後に県庁中川援護課長さんから遺族援助のことにつきお願いします。

中川雪夫

私も援護の仕事に、たずさわる者は常に相手の立場に立った気持ちで仕事をすすめねばならないものと思います。即ち具体的な事務処理については、書類の受付から最終処理にいたるまで常に遺族の方々や戦傷病者の方々の立場に立つて暖かい配慮を持って進めて行かなければならないと思います。

次は失権の防止という事であります。近年援護関係法令は、つぎつぎと新設や改正が行なわれています。戦傷病者戦没者遺族等援護法などは昭和二十七年に制定されて以来今日まで二十回以上も改正されています。こうした改正のために新たに権利が発生するという人ができてくるのであります。動員学徒など準軍属の遺族については、法律の改正により、三万円の弔慰金の他に六十才以上の父母については遺族給与金も受給できることになっています。しかし私どもで調査したところまだ給与金を請求していない人が県下に約千人もありました。これらの方については関係の各市町村に通知して早く請求していただくようお願いいたします。



第三は事務処理を迅速にすることであります。障害年金にいたしましたし、でも遺族給与金にいたしましたし、請求書を厚生省に進達してから裁定まで早くても六ヶ月もかかるのが通例です。請求書等書類の完備したものを早く進達するよう努力いたします。

司会者

皆さまどうも有難うございました。死没者のご冥福を祈ってこの座談会を終わります。

ご寄付お礼

令和6年6月から令和6年10月までに、次の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございます。

- 桑原 キヨコ 様
- 志水 清 様
- 奥野 静子 様
- 佐々木 末人 様
- 仲美 直哉 様
- 能美 通子 様
- 榎寄 香子 様
- 臺 和彦 様
- 西村 晴夫 様
- 中村 浩子 様
- 新祖 様

ご寄付いただく際には、左記の口座へお振り込みください。

ゆうちょ銀行

振替口座 0130001618858
一般財団法人 広島県動員学徒等犠牲者の会



当会の活動への

ご参加のお願い

みなさまご承知のように、当会では、原爆だけでなく、第二次世界大戦中に死没した動員学徒等の慰霊を目的に、役員が毎月、1回の読経と2回の清掃を継続実施していますが、役員はみな高齢となり、早晚活動に支障をきたすことが予想されます。

あとがき

米大リーグ、ドジャースの大谷翔平選手が、今年の9月20日に敵地マイアミで行われたマーリンズ戦で、6打席6打数6安打、3打席連続本塁打、10打点そして2盗塁を記録し、大リーグ史上初となる「50本塁打&50盗塁」を飛び越え、一気に「51-51」に到達する偉業を達成したことは、皆様のご記憶に新しいところである。この日、日本国内の主要都市では、大谷の偉業を報じる新聞社の号外が乱舞したようである。

40本目の本塁打が、マンガのような劇的なサヨナラ満塁ホームランであったこと。ポストシーズンの初戦では、2回

動員学徒のお子様、甥姪様、また、この会の活動主旨にご賛同の皆様、どうかお力をお貸しくださいませんか。

ご参加をお待ちいたしております。

(お問合わせは、事務局へお願いします。)

連絡先(TEL/FAX)

082125210316

火曜日・金曜日の10時~15時に在席しております。それ以外は留守電になっております。

に劇的な同点3点本塁打をかつ飛ばし、山本とチームの負けを一気になくしたばかりでなく、以降のポストシーズンの快進撃の起爆剤となった。

そして、ワールドシリーズでは、左肩を脱臼したにもかかわらず随所で活躍し、ドジャースの優勝に大きく貢献した。

などなど、大谷選手の活躍は、枚挙にいとまがないところである。

大谷選手は、日本に米国に、スカッとさわやかな涼風と笑顔をもたらしてくれている。

来年は投手との二刀流で、きっとまた、私たちの想像をはるかに超える大活躍してくれるに違いない。

楽しみじゃねー、がんばれ！翔平！
(本地)